

自昭和十二年十一月二十四日
至昭和十二年十一月二十五日

窑水橋附近戰鬥詳報

第三號

步兵第百五十聯隊
小

2208

附 密水橋
近戰闘詳報

歩兵第百五十聯隊長

陸軍歩兵中佐山本重恵

一、戰闘前ニ於ケル彼我一般ノ態勢附圖第一ノ如シ

第一、戰闘前ニ於ケル彼我一般ノ態勢附圖第一ノ如シ

第二、戰闘ニ影響ヲ及ボシタル天候
氣象、地形並住民地ノ状態

一、道路ノ状況

湖州―長興道ハ地圖記載ノ道路ハ不良ニシテ別ニ湖州西門―密水橋北方山脚―長興道ハ重車輛ヲ通スル良好道路開通（路巾約三米、路盤堅硬）シアリテ本戰闘遂行ノ爲極メテ有利ニ使用セラレタリ

然レトモ本道以外ハ車輛ヲ通スヘキ道路存在セスクリールニ依リ遮断セラレアル狀況ナリ

二、湖州西北方山地ハ秃山ヲ形成シ兩斜面概ネ峻嶮ニシテ要

害ヲ爲ス。敵ハ各山頂ニ半永久陣地ヲ構築シアリ
而シテ、密水橋附近ノ高地ハ敵陣地右翼ノ重要ナル據
点ナリ

附近畑地、水田ハ日本内地ト大差ナシ

三、橋梁ハ湖州―密水橋ニ至ル間ハ概ネ、現存シアリ然レ
トモ密水橋東北方約千五百米橋梁ハ一部橋礎ヲ破壊
セラレアリ

四、住民地ハ地圖ト大差ナク家屋ハ日本内地ノモノニ近似ス

五、日出時刻 午前七時三十分

日没時刻 午後六時

月明時刻 正子以後ニシテ敵前ニテ我部隊ヲ背

後ヨリ照明セリ

六、本戦闘間幸ニシテ好天ニ恵マレ寒氣ノ程度モ最大

零度ヲ限度トス

第三、彼我ノ兵力交戦セシ敵ノ團隊號
將帥ノ氏名編制裝備素質及戦法
一友軍ノ兵力

歩兵第百五十聯隊 聯隊本部

第三大隊本部

第六中隊ノ一小隊

第七中隊ニ小隊欠

第八中隊

第三機關銃中隊ニ小隊欠

第四中隊ニ小隊欠

歩兵第百五聯隊第十三中隊ニ小隊欠

歩兵第百五聯隊第七中隊ニ小隊欠

備考、
194. 4. 26. 7. 8. 第一機關銃隊長指揮ニ師團徵發隊トシテ、

戦闘末期
増加セラル

戦闘初期

未タ聯隊ニ復歸セス

第37ハ旅團豫備隊 以テ湖州攻撃中

敵ハ蔣介石直系ノ廣東廣西出身ノ兵ヲ以テ編成セラレアリ

師團長 程樹芬

團隊號 第七軍ニ屬スル第三十四師

第百七十三師ノ混成ナリ

右ハ戦死者ノ手帖ニ依リ調査セリ

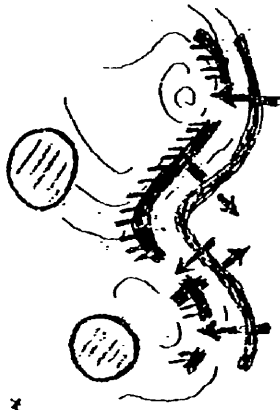
兵力ハ約一ヶ聯隊ニシテ機關銃ルヲモ十挺迫撃砲數門ヲ有ス

編制裝備及素質共ニ優秀ニシテ精神的訓練ハ相當徹底シ勇敢ナリ 殊ニ彼力信號彈ヲ用ヒ火力ヲ伴ヒ統一セル果敢ナル逆襲ヲ實施シ午榴彈戦ニ依リ肉迫

セル點等ハ輕視シ難シ
敵軍ノ戰法

敵ノ陣地ハ湖州―漂陽間ノ數線陣地ノ一部トモ謂ヒ得ヘ
ク又湖州附近ニ於テ敗退セル敵主力ノ收容陣地ノ右翼
トモ見做シ得ヘレ

敵軍ノ陣地編成ハ輕掩蓋ヲ有スル野戰陣地ニシテ
密水橋西北部高地ヲ據点トシテ圖ノ如クソ軍逆ハ陣
地ヲ模倣シ陣地内部ニ敵主力ヲ吸引シ兩側ヨリスル逆
襲(火力機動併用)ニ依リ戰力減ヲ企圖セルモノト判断ス



第四、戦闘経過、概要

(一)

午後五時三十分聯隊ハ湖州北門外ニ達シ受ケタル命令
及下達セル命令次ノ如シ

歩兵第百三十八旅團命令

十月三十四日午後五時三十分
於湖州東北端

一、敵ハ算ヲ乱レテ西北方ニ退却中ナリ

師團ハ秋山旅團ヲ以テ此ノ敵ヲ急追シツ、アリ

二、旅團ハ速ニ窑水橋(湖州西方約八軒)ニ進出シ敵ノ退
路ヲ遮断セントス

三、歩兵第百十五聯隊ハ前衛トナリ本隊ノ前方約五百米
ヲ先ス窑水橋ニ向ヒ追撃スヘシ

四、歩兵第百五十聯隊ハ旅團本隊トナリ旅團司令部ノ後
尾ヲ續行スヘシ

五、余ハ本隊ノ先頭ニ在リテ前進ス

旅團長

奥少將

歩兵第百五十聯隊命令 十一月二十四日午後六時
於湖州北端

一 敵ハ算ヲ乱レテ西北方ニ退却中ナリ

旅團ハ速ニ密水橋(湖州西方約八軒)ニ進出シ敵ノ退路
遮断ヲ企圖ス

二 聯隊ハ旅團本隊トナリ湖州―密水橋道ヲ密水橋ニ向ヒ
前進セントス

三 聯隊ハ午後六時三十分迄ニ左記順序ニ南面シテ現在地
ニ集合スヘシ

○ ITL 4 II 8 7(1/2) 8 II Mg (1/2)
Rmg 1/3 6

四 余ハ聯隊ノ先頭ニ在リテ前進ス

聯隊長 山本歩兵中佐

(二) 右ノ命令ヲ下達シ前進ヲ待テトモ前衛タル歩兵第百
十五聯隊ハ部隊ノ集結完了セズ前進遅延シ敵ヲ逸
々

スルノ虞アルヲ以テ聯隊長ハ自ラ前衛タルヘク旅團長ニ意見具申ヲナシ之ヲ認可セラレ步兵第百十五聯隊ニ代リ前衛ヲ命セラレ午後七時頃第四中隊ヲ突兵中隊トシ附團第二、行軍序列ヲ以テ湖州北門附近ヲ出發シ水田、カリーク間ノ細径ヲ求メ前進ス聯隊ノ前衛ヲ命セラルト同時ニ步兵第百十五聯隊ニハ集結完了後步兵第百十五聯隊ニ追及スヘキヲ命セラレモ同聯隊主力ハ翌朝戦闘終了ノ頃戰場ニ到着セルカ如シ

(三) 第一次

一、斯クテ聯隊ハ湖州ヨリ敗退スル敵ノ退路ヲ遮断スヘク密水橋ニ向ヒ強行ヲ續ケレカ當時步兵第百二十七旅團ノ主力ハ既ニ密水橋附近ニ進出シアルヘルト豫期シ警戒ト連絡ニ努メツ、夜行軍ヲ續ケ辛シテ午後十一時頃湖州西門

長興ニ通スルヲ禁ミテ出テ其ノ才ヲ擧ゲテ其ノ所ニ在リテ其ノ才ヲ用フ
前進中ニ十五日正子尖兵ノ先頭ヲ以テ釜水橋北方山脚附
近ニ達セシ時俄然前方一軒家方向ヨリ敵機關銃及小
銃ノ猛射ヲ受ク當時聯隊長ハ所要ノ指揮機關ヲ隨行
尖兵中隊長ノ偽置ニ在リテ行進中ニシテ當初ハ友軍
ノ射撃ニアラサルヤヲ疑ハレタルモ聯隊長ハ當面ノ敵情
ヲ監察シ其ノ兵力約一大隊ト判断シ即時獨斷當面
ノ敵ヲ攻撃スルニ決シ先ツ尖兵中隊長ニ自ラ命令スルト
共ニ瀧澤副官及中條通信班長ヲシテ左記要旨ノ命令
ヲ各別ニ傳達セシム

命令要旨

- 一 聯隊ハ獨斷當面ノ敵ヲ攻撃セントス
- 二 尖兵中隊(第四中隊)ハ直ニ一軒家ノ敵ヲ攻撃スヘシ第二
機關銃隊ノ一小隊ヲ之ニ配屬ス
- 三 第八中隊ハ最左翼ヨリ敵ノ右側背ヲ攻撃スヘシ

四、第七中隊（中隊長ノ指揮スル一小隊、機關銃一介隊ヲ屬ス）右第一線右前方高地頂上ヲ占領、主力ノ右側背ヲ掩護スヘシ

五、爾余ノ諸隊ハ道路ノ左側ニ停止スヘシ
聯隊長ハ直ニ第三大隊長ヲ招致シ左第一線ノ指揮ヲ委ス、同時聯隊機關銃一小隊ヲ配屬ス

爾後ニ於ケル敵情並ニ戰鬪經過ノ概要附圖第三ノ如シ、本道右前方稜線上ヨリ敵重火器ノ猛射ヲ受ケシモ將兵ノ志氣旺盛ニシテ月下ニ震動スル銃聲慘慘ヲ極ム

森下中尉ヲシテ當面ノ狀況及聯隊長ノ決心並ニ處置ノ大要ヲ旅團長ニ報告セシム

二午前二時三十分第一線ハ獨力敵陣地ノ第一線ニ突入、旨報告シ來リ聯隊長之ヲ是認ス

午後二時四十分第一線ハ第四中隊正面ノ突撃ヲ奏功同五
十分第三線陣地ヲ奪取セルモ其後方及左右ノ敵情詳ナラ
サルヲ以テ該地ヲ確保セラム

同時頃ニ右前方高地ノ敵ノ射撃止ミ敵ノ全線モ亦沈黙シ
第一次戦戦ニ極メテ有利ニシテ聯隊長ハ戦線ヲ整理シ
敵情ノ搜索ヲ命スルト共ニ最右翼第七中隊ニ極力高地
上ノ敵攻撃ヲ督勵ス

時ニ午前三時五十分ナリ

(四) 第二次

一 第一線諸部隊ハ陣地確保ヲ完了ス 諸介候ノ報告ヲ綜
合スルニ敵ハ其ノ兵力ヲ逐次西方ヨリ第一線ニ増加シ戦線
ヲ擴張シアル模様ナルヲ知ル 茲ニ於テ聯隊長ハ唯一
ノ豫備隊タル第六中隊ノ一小隊ヲ第三大隊長ノ指揮
下ニ入ラセム

聯隊機關銃隊長小林大尉ヲレテ一小隊ヲ率ヒ第一線
 ニ増加シ先ニ第一線ニ配屬シタル小隊ヲ統一指揮セシム
 午前四時頃綠色ノ信號彈ノ揚ルヲ認ム敵ノ第一線タル
 西方約三百米ノ獨立高地、右前方高地及本道附近
 ノ殆ト全線ヨリ猛射起リ敵ハ恢復攻撃ヲ企圖セルモノ
 ト判断シ聯隊長ハ尤ノ處置ヲナス
 1. 第一線部隊ハ極力現在ノ線ヲ確保シ敵ヲ撃退スヘシ
 2. 機關銃ハ主力ヲ以テ獨立高地ニ對シ集中射撃
 3. 第二大隊長ハ一小隊ヲ聯隊本部西南側森林附近ニ
 差遣シ左側背ヲ掩護セシムヘシ
 4. 聯隊機關銃ハ一銃ヲ以テ高地上ノ敵重火器射撃
 他ノ一銃ヲ以テ左側掩護ニ任スヘシ
 5. 通信班ヲレテ聯隊本部ヲ基點トシ第一線大隊及旅
 團司令部間ニ有線通信網ヲ構成セシム

二敵ノ兵力ハ逐次増加シ來リニケ大隊ト推定セラレ全線
我ヲ猛射スルモ我ハ之ニ應射スルコトナク沈黙ハ儘約一
時間ヲ経過ス 通信班ハ敵彈雨注ノ間ヲ極メテ勇敢
ニ旅團司令部及聯隊本部間ノ連絡ヲ完了セリ
三午前五時頃ヨリ敵ハ赤色信號彈ヲ揚ケテ喇叭小笛
ヲ用ヒ前後三日ニ亘リ逆襲シ來ル特ニ聯隊本部正面
猛烈ヲ極ム 各部隊ノ勇猛沈着而モ協同宜シ
キヲ得數分ニレテ之ヲ撃退ス 第二大隊長ハ此
ノ銃聲ニ軍旗ノ安危ヲ懸念シ自ラ大隊本部ヲ率
來援セリ
敵ハ本道及西側地區ニ死体約一〇〇個及武器ヲ遺棄
テ旧陣地ニ敗退ス
右前方高地ノ敵ハ頑強ニ抵抗シ第七中隊ノ攻撃困
難ノ情況ニ在リ

四聯隊長ハ電話ヲ以テ以上ノ情况ヲ旅團長ニ報告シ
午前五時二十分旅團長ハ戦線視察ノタメ來部ニ
テ聯隊ノ状況及尔後ノ戦闘指導ノ方針ノ報告
ヲ受ケテ記要書ヲ旅團命令ヲ下達セラレ

命令要旨

旅團護衛小隊ヲ貴隊ニ復歸ス

歩兵第百十五聯隊ノ一中隊ヲ招致中ニテ到着
次第貴官ノ指揮下ニ入ラシム

五旅團命令受領後新隸下部隊ヲ如ク區署
ノ旅團護衛小隊(計)ヲ第七中隊ノ指揮下ニ復
シ右前方高地ニ急進シ高地占領ニ關シテハ特
ニ左右兩側ノ警戒ニ留意セシム

2. 歩兵第百十五聯隊ノ第十ニ中隊(一小隊欠)ハ貴
聯隊豫備隊トシ第七中隊ニ増加ノ準備ニアラシ

六午前六時三十分右前方高地敵陣地上ニ友軍部隊
ノ目章旗ヲ目撃ス 次テ眼鏡ヲ覗ケハ同高地ハ彼
我爭奪戦ヲ演シアリ

聯隊長ハ歩兵第百十五聯隊第十二中隊(一小隊欠)ヲ
直ニ高地上ニ増加シ命シ且該方面ヨリ日出後ノ戦況
ノ發展ヲ期セリ

同時頃ヨリ本道方面ノ敵動搖ノ色アリ 敵ハ迫撃砲
ヲ乱射シ我カ迫撃ヲ拒止スルモ本道方面ノ第一
線部隊ハ勇敢ニ迫撃ニ移リシカ旅團長ノ意圖
ニ基キ長驅スルコトナク停止シ追撃射撃ニ移レリ
七午前八時稍過キ一時沈黙シタル敵迫撃砲ハ再び射
撃ヲ開始シ射撃ノ修正確實ニシテ我カ第一線
部隊ニ死傷者ヲ生ス

八午前八時三十分右前方高地ハ激戦、後第七中隊及

機關銃分隊ニ依リ完全ニ領有セリ

敵ハ北方及西方山脚ニ向ヒ退却セルモ我猛烈ナル追撃射撃ニ依リ一五ノ死体ヲ遺シ敗退シ歩兵第百十五聯隊ノ第十二中隊更ニ到着シ戦果擴張ニ協力セリ

茲ニ於テ聯隊長ハ一部ヲ以テ第一線ヲ確保セシメ主力ヲ集結シ爾後ノ追撃ヲ準備ス時ニ午前八時五十分ナリ

當時衛生隊未ダ着ニシテ隊附軍醫初療ニ忙殺セル

午前九時頃友軍飛行機飛來シ長興附近ノ空中寫真ヲ投下ス對空班ハ之ニ對シ敵迫撃砲ノ爆撃ヲ要求ス友軍機ハ暫時上空ヲ旋回シ敵迫撃砲ノ所在ヲ偵察シアリレカ敵分ノ後轟然タル爆音

ヲ聞ク 時ニ午前九時三十分ナリ
午前十時師團司令部及歩兵第百二十七旅團ノ先
頭到着ス

歩兵第百二十八旅團命令^{上リテ五十分前上時十分}於密水橋東側

一敵情ニ就テハ諸官ノ知レル通り
師團ハ長興ニ向ヒ敵ヲ追撃ス

秋山支隊ハ長興ニ向ヒ敵ヲ追撃ス

二奥旅團ハ長興ニ向ヒ敵ヲ追撃セントス

三歩兵第百十五聯隊ノ一々中隊(機關銃一小隊ヲ附ス)

ハ尖兵中隊トナリ長興ニ向ヒ前進スヘシ

四爾余ノ諸隊ハ本隊トナリ歩兵第百十五聯隊ノ一小

隊旅團司令部歩兵第百十五聯隊ノ主力ノ順序

ニ尖兵中隊ノ後方約五〇米ヲ前進スヘシ

歩兵第百五十聯隊ハ傷者ノ收容ヲ終了次第

主力ノ後方ヲ追及スヘレ

五 余ハ本隊ノ主力ニツキテ行進ス

旅團長 奥少將

右命令ニ基キ衛生隊ノ兵力僅少ナルヲ以テ死傷者ノ
運搬並ニ護衛ノ爲歩兵ニ小隊ヲ残置シテ託行軍
序列ヲ以テ旅團主力ニ追及ス

8
| 200^m
P iTL 7(2/3) II P 1/3 6 4(1/3) II Mg(1/2) R Mg 1/3 4

斯レテ二十六日午前一時長興ニ入城ス

第五 戦闘後ニ於ケル彼我形勢ノ概要

一 附圖第三ノ如レ

第六 其他参考トナルヘキ事項

一 敵ノ好シテ採レル戦法前記ノ如レ之カ對策トシテ
1. 迫距離搜索警戒ヲ講ジス

乙. 敵ノ翼側據點ニ兵カノ重點ヲ指向シ敵ノ企圖ヲ破摧スルニ着意スルヲ可トス

ニ本戦闘ニハ二十三日夜以來歩兵砲ヲ伴ヒ得ス湖洲東方本道上ニ殘置セシタメ我ニ一門ノ砲ヲ有セス手榴彈ノ携行少數兵數三中隊内外ノ歩兵ト機關銃十一挺ニ過キサルモ敵ハ三倍以上ノ優勢ナルノミナラス迫撃^砲數門ヲ裝備シ特ニ豐富ニ手榴彈ヲ有シ既設陣地ニ依リ我ヲ劣勢ト侮リ逆襲恢復攻撃等勇力敢ニ繰返シ約八時間繼續セル爲我死傷多キヲ免レサリキ

三. 裝備上敵ノ重火器迫撃砲ニ對抗シ然モ行動輕易ナル重擲^砲筒ヲ裝備シ又地形上歩兵砲聯隊砲等一切駄馬編成タルヲ要ス

四. 勇敢ナル指揮官ハ至寶ナリ平時將校ノ教育ハ一

10

層實戰本意タルヲ要スルト共ニ中ハ隊長ノ入選
並ニ長期軍隊教育ヲ受ケアル准尉曹長等ヲ
廣ク登用シ現狀ヨリ一層實力アリ威令行ハレ
真ニ戰場ニ役立ツベキ現役在郷ノ中ハ隊長ヲ
増加スルコト國軍ノ急務ナリ而シテ伍長軍
曹ノ停年ハ延長シ下級幹部ノ精練ヲ期スルノ
要アリ

五戰鬪ノ成績

ノ彼我ノ死

イ友軍

戰死

負傷

一
九

二
九

ハ敵軍

遺棄死体

2.

戦闘ノ効果

負傷

本道及西側地區
釜水橋西北方高地

約一〇〇

約一五〇

不詳

瞰制ノ利ヲ有スル陣地ニ據レル數倍ノ敵ヲ夜間
ヨリ翌朝ニ亘リ攻撃シ之ヲ敗走セシメ師團主力
ノ進路ヲ開キ爾後ノ追撃ヲ容易ナラシメ得タリ
若シ湖洲ヨリノ前進又ハ攻撃ヲ遅延センカ敵
ハ益々高地特ニ376附近ヲ堅固ニシテ領シ我ハ
晝間攻撃ヲ力行シ頑強ナル抵抗ヲ受ケ追
撃ヲ澁滞セシナラン

第七、勲功特ニ拔群ナルモノ

右者第一線大隊長トシテ終始敵彈雨飛ノ中ニ部下各隊ヲ叱咤激勵シ本戦闘ヲ極メテ有利ニ導キタリ
其豪勇ハ指揮官ノ範タルモノニシテ殊勲申ニ該當スルモノト認ム

第四中隊長歩兵中尉 河原信ニ

右ハ大兵中隊長トシテ至難ノ任務ヲ達成シ戦闘當初ヨリ第一線ヲ指揮シ機ヲ捉ヘテ優勢ナル敵陣地ニ突入敵ヲ敗走セメシ且救次ノ敵逆襲ニ決然起ツテ其企圖ヲ破摧シタル其果敢ナル行爲ハ殊勲申ニ該當スルモノト認ム

聯隊副官歩兵少尉 瀧澤 壽

右者敵彈雨飛ノ裡ニ在リテ旅團司令部並第一大隊間ヲ前後教回ニ亘リ連絡シ又能ク隊長輔佐ノ任ヲ完フシ敵

逆襲紛戦ニ際シテハ傳令ヲ指揮シ自ラ陣頭ニ立テ敵数人ヲ
斬リ軍旗ヲ守護シタル沉着剛膽ナル行爲ハ以テ衆ニ範
ルモノニシテ殊勲甲ニ該當スルモノト認ム

通信班長 歩兵少尉 中 條 寧 富

右者能ク戦況ヲ洞察シ彈雨ノ中ニ機宜ニ通スル通信網
ヲ構成シ積極的ニ任務ニ邁進シ更ニ敵ノ逆襲ニ際シ小數
ノ部下通信手ヲ指揮戦闘シ以テ軍旗隊長ノ危急ヲ救
ヒタルハ殊勲甲ニ該當スルモノト認ム

第七中隊長 歩兵中尉 野 呂 甚 太郎

右者本道右高地攻撃ヲ命セラル、ヤ夜間峻難ヲ冒
シ之ヲ奪取シ更ニ數倍ノ敵逆襲ニ際シ敵ト咫尺ノ間
ニ壯烈ナル勇戦ヲ敢行シ機關銃分隊ヲ併セ指揮
シ克ク任務ヲ達成シタルハ武功拔群ニシテ殊勲甲ニ該當スルモ
ノト認ム

聯隊本部情報班 歩兵中尉 森 下 武

右者敵彈雨飛ノ中ヲ克ク第一線情況ヲ明シレ友軍ノ兵力
僅少ナル本戦闘ニ於テ適時適切ナル意見ヲ具申シ又自ラ旅
團司令部トノ連絡ニ任レ以テ聯隊長ノ戦闘指導ヲ容易ナラ
シメタル武功ハ殊勲乙ニ該當スルモノト認ム

第ハ中隊長 歩兵中尉 塩澤 治雄
右者當初ヨリ敵彈雨飛スル左第一線ニ在リ夜間廣正面ヲ
拒當セルモ克ク部下ノ掌握ヲ確實ニシ屢次ノ敵逆襲ニ際シテ
ハ敢然之ヲ撃退シ戦捷ノ因ヲナセリ其ノ武功ハ殊勲乙ニ
該當スルモノト認ム

聯隊長 歩兵少尉 小山 長 堯

右者終始運糧ヲ守護シ敵彈雨注ノ間克ク軍糧ノ偉容ヲ示シ
特ニ午前五時敵ノ大逆襲ニ際シテハ僅少ナル援護兵ヲ以テ之ヲ排撃
シ將兵ノ士氣ヲシテ益 旺歟ヨシメタルハ武功拔群ニシテ殊勲乙ニ
該當スルモノト認ム

聯隊瓦斯楯 歩兵少尉小澤 庄三
右者敵彈雨飛ノ中ヲ數回ニ亘リ聯隊本部並ニ第一線ト連絡レ隊
長輔佐ノ任ヲ完フレ敵逆襲ニ際シテハ率先頭ニ立チ適切ニ
傳令ヲ指揮レ遂ニ之ヲ撃退セル武功拔群ニテ殊勲トニ該當スル
モノト認ム

第三機關銃中隊長 歩兵少尉宮下興宗
右者終始敵彈雨飛ニ道路附近ニ在リテ敵ヲ猛射セシメ前後數回ニ亘ル
敵逆襲ニ際シテハ能ク第一線中隊ト協力シ機敏適切ニ火力ヲ集中シ敵
ヲシテ永ニ陣地ヲ棄テ潰走スルノ已ムヲ得サルニ至ラシメタリ 其武功ハ
拔群ニテ殊勲トニ該當スルモノト認ム

聯隊機關銃隊

宮崎 介 隊長

右部隊ハ第一中隊ト協力シ高地確保ノ任務ヲ受クルヤ宮崎伍長ノ指
揮ヲ以テ峻峻ヲ克ク歩兵ト行動ヲ共ニシ敵逆襲ニ際シテハ其特性ヲ發
揮シ企圖ヲ挫折シ同中隊ヲシテ高地確保ヲ容易ナシメ且敵ノ退却ニ
際シテニ甚大ナル損害ヲ與ヘタル武功拔群ニテ殊勲甲ニ該當スルモノト認ム

戰鬪詳報第三號附表 其一

昭和十二年
十月二十五日
步兵第百五十聯隊死傷表

備考	備	總計	第 二 大 隊								聯隊本部	團區	
			第十一中隊	聯隊機關銃隊	第四中隊	第二機關銃隊	第八中隊	第七中隊	第六中隊	本部		隊	分
		三三 七五 一四	三 八五	四 七二 二	三 一〇三	二 三八	四 一六八	二 九四	二 八五	四 二八	八 八六 二	將校 准士官 下士官 馬匹	戰 關 參 加 人 馬
		一 九		六 一	一	三	八				一	將校 准士官 下士官 馬匹	死
		三 二六	一	一 五	一	三	一 五	一				將校 准士官 下士官 馬匹	傷
												將校 准士官 下士官 馬匹	生 死 不 明

戰鬪詳報第三號附表其三

昭和十二年
十月二十五日
步兵第百五十聯隊鹵獲表

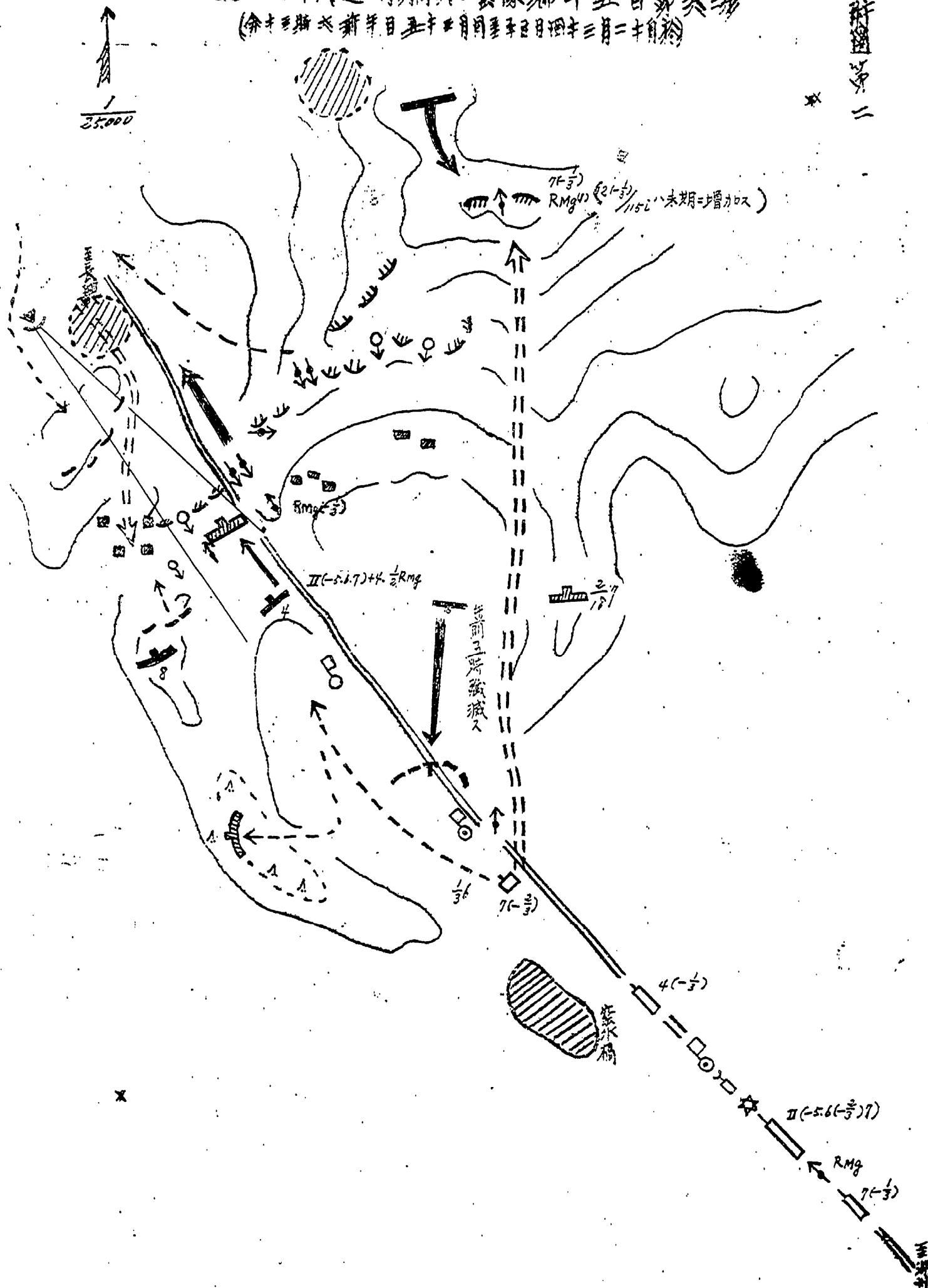
種類	區分	員數	備考
俘虜	將校		一、銃ノ内譯 重機 二 輕機 四 小銃 九一
	准士官 下士官 兵	五	
戰	馬匹		
	銃	九七	
利	砲	一	
	銃彈	二二、〇〇〇	
	砲彈		
	手榴彈	四九	
	其他		

							昭和十二年 十月二十五日		步兵第百五十聯隊武器彈藥損耗表(甲)	
計	第十一中隊	聯隊機關銃隊	第四中隊	第二大隊	聯隊本部	隊區 號分	種類		費	損
							彈	藥		
9070	1600		2170	5740	60	銃小	彈			
8830			400	8430		銃開機				
4680		4200		480		銃開機				
						銃開機				
13	13					銃拳				
30	2		14	14		彈榴手				
						銃小				
						銃開機				
						銃開機				
						銃騎				
						銃小				
						銃開機				
						銃開機				
						他其				

歩兵第五百五十番隊水橋附近進路開通要図

(歩兵第五百五十番隊水橋附近進路開通要図 三月二十一日)

附圖第二



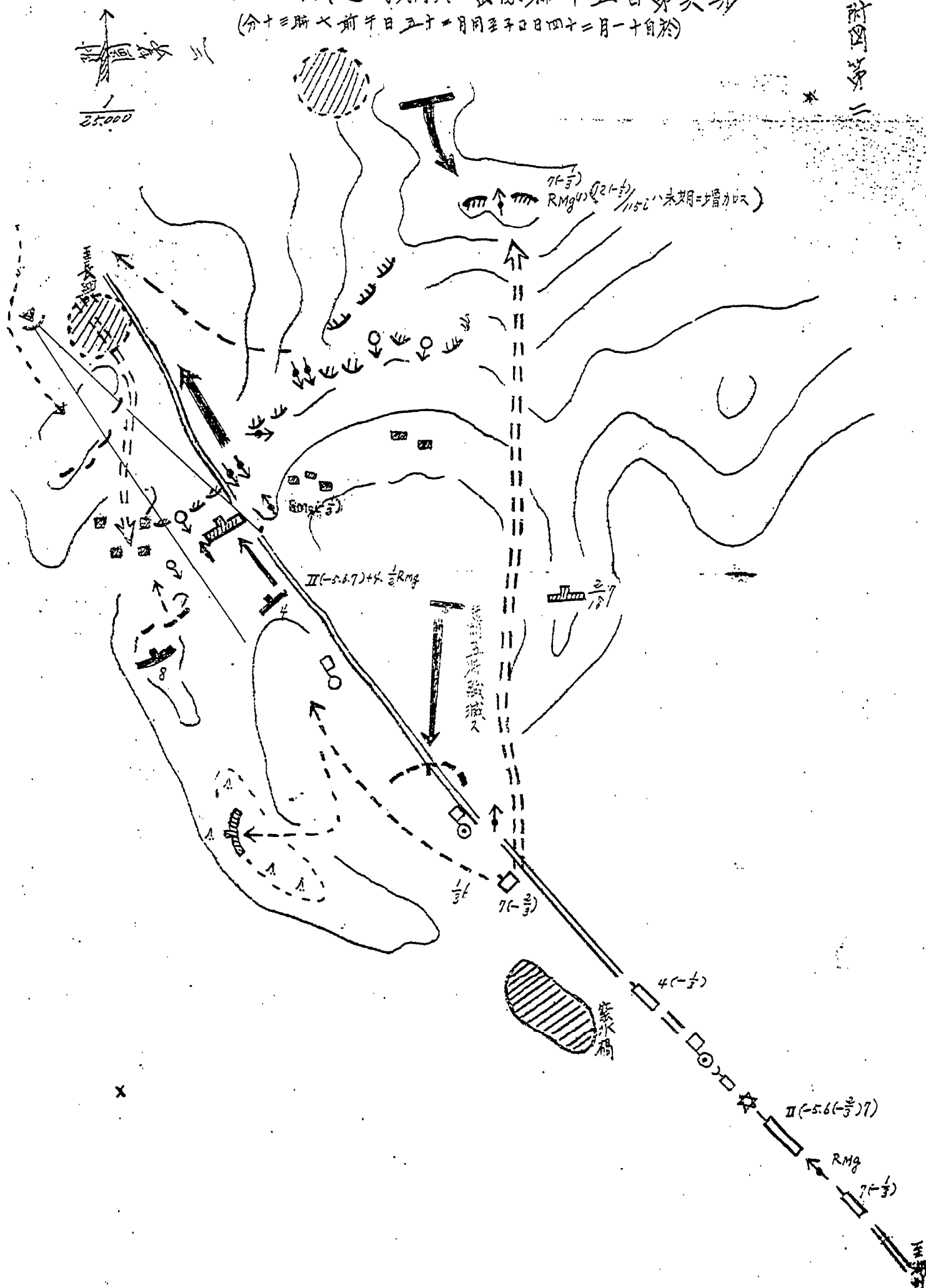
2238

歩兵第五百聯隊水橋附近戰經過要図

(自於十一月二十四日正午至十二月一日正午)

附圖第二

2239



戰後ニ於ケル我々之態勢要圖
(於十一月十五日午前八時十四分)

附圖第三

